

集める・伝える・活かす

災害メモリアルアクションKOBÉ

ACTION 2017

KOBÉのことば

参加無料

活動報告会

プログラム

司会：松蔭高等学校 放送部

日時

2017.1.7 [SAT]
10:00 → 13:00

会場

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

これまで、「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸（1996～2005年）」、そして、その教訓を次世代に伝えるために「災害メモリアルKOBÉ（2006～2015年）」を実施してきました。

そして、2015年度からこの先の10年を見据え、「災害メモリアルアクションKOBÉ」という取組みを開始しました。

参加学生の防災・減災活動を通じて、災害教訓を「活かす」ことができる人材を育成するとともに、防災の取組みをいろいろな地域・世代へ広げていく事例をまとめ、今後の被害を減らすことに寄与することを目指します。

主催：人と防災未来センター、京都大学防災研究所
共催：京都大学防災研究所自然災害研究協議会
企画：災害メモリアルアクションKOBÉ企画委員会
後援：兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会/朝日新聞社/読売新聞神戸総局/毎日新聞神戸支局/産経新聞神戸総局/神戸新聞社/NHK神戸放送局/ラジオ関西/神戸学院大学/明石工業高等専門学校/関西大学社会安全学部/立命館大学サービスラーニングセンター

10:00

開会挨拶

災害メモリアルアクションKOBÉ 企画委員会委員長
人と防災未来センター震災資料研究主幹
京都大学防災研究所教授 牧 紀男

10:10

活動発表

発表：①兵庫県立舞子高校
②国立明石工業高等専門学校 D-PR0135°
（明石高専防災団）2年生チーム
③国立明石工業高等専門学校 D-PR0135°
（明石高専防災団）3年生チーム
④関西大学社会安全学部 近藤研究室
「ぼうさいマイCREDO」共有プロジェクト
⑤神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ
⑥兵庫県立大学「ほっとKOBÉ」
⑦立命館大学「減災×学びプロジェクト」

12:05

公開サロン

「未災者が伝えられること」

この活動で印象に残った経験を参加学生同士で共有し、自分たちと同世代の若者に対して「KOBÉのことば」をどのように伝えることができるか意見交換します。

ファシリテーター：ひょうご震災記念21世紀研究機構
研究調査本部 研究員 高森 順子
グラフィックレコーダー：京都産業大学教育支援研究開発センター
鈴木 沙代
サロン参加者：参加団体の学生等（当日参加している方々全員）

12:55

講評・閉会挨拶

災害メモリアルアクションKOBÉ 企画委員会顧問
人と防災未来センター長 河田 恵昭

※敬称略



災害メモリアルアクションKOBÉ

ACTION 2017

兵庫県立舞子高校



私達は次の災害でその人にとって最良の判断ができるための活動を行っています。最良の判断とは災害で死なないことではなく、後にその人が後悔をしないことだと捉えています。私達の「KOBÉのこぼば」は二つあり、

一つめはヒアリングで聞いた生の声。二つめは生の声を聞き、私達を感じたことです。この二つを大切に、危機感をもってもらうことを目的として発信します。

関西大学 社会安全学部 近藤研究室 「ぼうさいマイCREDO」共有プロジェクト



防災の分野は、「あぶない」、「足りない」、「難しい」といった、“後ろ向きな”こぼばのオンパレードです。これではちょっと息苦しい。そこで、関西大学近藤ゼミでは、「ぼうさいマイCREDO」(クレドは、ラテン語で「約束」という意味)を集め

るという、KOBÉ発のプロジェクトを始めました。各地で様々なメディアを活用して、希望を紡ぐ“前向きな”こぼばを共有しています。

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ 「阪神・淡路大震災の教訓って、伝わってる?」



阪神・淡路大震災から22年。東日本、熊本など大震災が頻発し、教訓が伝えられてきた。なのに、犠牲者は減らない。なぜ? 大学生たちに芽生えた疑問。中学生に、体験した街の人に聞いてみよう。私たちの言葉で災害の教訓を考えよう。3年ゼミ長の田中瞳さんは「各地の災害現場に行き、なんかモヤモヤとしていた。未災者の私たちが体験者から受け止めて、私たちの言葉で次の世代に伝えて行きたい」と話す。

立命館大学 「減災 × 学びプロジェクト」



私達は、震災があった神戸・熊本・新潟・東北・熊本など様々な地域で活動してきました。実際に地域の方々と関わり、その現状を自分達の手で見る中で、地域ごとに必要なものはなにかを考えていきました。地域に合わせた

様々な活動の仕方において、「減災」について多様な側面から考えており、また防災や減災に活かしてもらえるように活動で得た経験や知識を伝えていくこともしています。

KOBÉのこぼば

「KOBÉ」とは、阪神・淡路大震災の被災地全体と、災害の影響を受けたひと、そして災害後まちのために活動したひと、すべてを表現しています。災害メモリアルアクションKOBÉでは大震災を直接経験していない若い世代の人たちが、災害を経験した人々へのインタビュー、アンケート、交流事業などを企画・活動し、「KOBÉのこぼば」を集めます。そして、わたしたちのこれからのために、「KOBÉのこぼば」から何を残し、伝えていべきかを考えながら、「学ぶ・活かす・拡げる」取り組みをします。1月に開催するシンポジウムでは、その内容を報告するとともに、「過去・いま・未来」を見据えたアクションのありかたについて、みんなで考えを深めていきます。

国立明石工業高等専門学校 D-PRO135° (明石高専防災団)



D-PRO135°(明石高専防団)は、明石高専で防災士の資格を持っている学生の有志の集まりです。現在、2年生チーム、3年生チームが別々の活動をしています。

2年生チームは明石市二見町東二見地区において、「東二見地区減災プロジェクト」を行っています。先日は町の方々と一緒にまち歩きを行い、ハザードマップを作成しました。今後は、このハザードマップを用いたハザードシートの完成を目標として活動していきます。

3年生チームは、遊ぶだけで防災の知識が身につく防災ゲームの製作を行っています。昨年度製作したゲームをベースに、現在は新しいゲームを開発中です。

新ゲームは、学習性、リアリティ、ゲーム性を向上させており、「共助」をテーマにしています。また、「防災クイズ」として阪神・淡路大震災の被災体験を組み込んでいます。

兵庫県立大学 「ほっとKOBÉ」



ほっとKOBÉは、HAT神戸の地域コミュニティ形成の支援を目的とした活動です。小さい子どもから高齢者まで、幅広い世代の誰もが気軽に集え、「ほっと」できる場所を提供しています。大学生が運営し、世代間の橋渡しをする役割を担っています。

普段の活動に加え、イベント等も行い、より多くの住民さんに利用してもらえるよう努めています。学生がHAT神戸の地域に密着し、継続した活動を行っています。

お問い合わせ:

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター事業部普及課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2 西館6階
Tel: 078-262-5060 Fax: 078-262-5082
Email: hitobou-fukyuuka@dri.ne.jp
HP: http://www.dri.ne.jp/memorial_action_kobe

本研究は京都大学防災研究所共同研究(平成28年度一般研究集会28K-02)の成果に成果によるものです